niponica

にぽにか

Discovering Japan
2017
no. 20

特集

日本列島　鉄道の旅

niponica
にぽにか no. 20

Discovering Japan 2017

日本語で「日本」を表す音「にっぽん(nippon)」をもとに名づけられた「にぽにか(niponica)」は、現代日本の社会、文化を広く世界に紹介するカルチャー・マガジンです。
日本語版の他に、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ロシア語、アラビア語の全7カ国語版で刊行されています。

表紙：桜と菜の花の中を行く、春の真岡鐵道
(写真＝中井精也)

目次

特集 日本列島 鉄道の旅

04 夢の列車旅

10 列車旅の演出者たち

12 COOLな列車 ARTな列車
ニッポンカルチャートレイン図鑑

14 鉄道の旅をより快適により安全に

18 ぬくもりを乗せて

22 召し上がれ、日本 おにぎり

24 街歩きにっぽん 門司

28 ニッポンみやげ 靴下

写真：アフロ

no. 20 2017年1月11日発行

発行／日本国外務省
〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1
http://www.mofa.go.jp/

特集

日本列島 鉄道の旅

谷を越え、山を縫い、川を渡り、トンネルを抜け、海辺を走る。
時速320キロの新幹線から、のんびりと行くローカル列車の旅まで、
日本の鉄道の旅はいつも心躍る喜びに満ちています。

夢の列車旅

写真：中井精也、マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ

海に、山に、平野に、峡谷に…
美しい風景を楽しむ列車がある。
新しい人生の始まりを乗せた列車がある。
土地の味覚を愛で、くつろぎや宴を楽しむ列車がある。
ただ目的地に着くことだけではなく、
新たな出会いのある「夢の列車旅」にでかけよう。

渡る（わた）

本州の岡山県と四国の香川県を結ぶ瀬戸大橋線は、
海を渡る大吊り橋を走る。
沈む夕陽を浴びて、列車が通過する。
車窓からは、きらめく波間をいく大小の船が見えるだろう。

北へ（きた）

真冬の青森県下北半島。
陸奥湾に面した線路をいくローカル列車。
車体に凍りついた雪の白さが、この地の風雪の厳しさを物語る。

光る（ひか）

夏のある日、高原列車の窓ガラスに朝日が反射する。

北国の駅では、線路脇に生い茂る木々がつくる緑のトンネルの向こうから
ローカル列車がやってくる。

南へ（みなみ）

「ななつ星 in 九州」は、九州の魅力を世界に発信するクルーズトレインだ。
地元の食材をふんだんに使った心のこもった料理と
移りかわる車窓を楽しめる。
いく先々の土地の人々の温かいもてなしとともに、
新たな感動を伴う列車の旅だ。

郷愁（きょうしゅう）

愛媛県の予讃線下灘駅は、「一度は降りてみたい駅」といわれる。
ホームからは、目の前いっぱいに穏やかな瀬戸内海が広がる。
とりわけ夕陽の絶景はみごとで、懐かしい風景を求めて、
この駅を訪ねる人も多い。

玄関（げんかん）

赤レンガ造りの駅舎をもつ東京駅は、日本の表玄関だ。
新幹線、在来線合わせて 1 日に 3,500 本もの列車がこの駅から発車し、
50 万人以上の人が乗車する。

笑顔（えがお）

日本式の畳敷きの車内にテーブルをしつらえた「お座敷列車」では、
車窓を眺めながらの「走る宴会」が始まっている。

九州の西海岸を走る肥薩おれんじ鉄道では、
クルーが鐘を鳴らしてレストラン列車「おれんじ食堂」の発車時刻を知らせる。

疾走（しっそう）

東北新幹線の東京〜盛岡間では、
北海道の新函館北斗駅をめざす「はやぶさ」と
秋田に向かう「こまち」が連結して、みちのくの大地を駆け抜ける。
そのスピードは、日本最速の時速 320 kmだ。

列車旅の演出者たち

「もう一度あの列車に乗りたい」「また来よう」。旅人にそう思わせる魅力は、車両だけではない。列車旅の楽しさを何倍にも広げ、「おもてなし」の心で旅人を迎える、演出者たちの存在が欠かせない。

DESIGNED BY EIJI MITOOKA + DON DESIGN ASSOCIATES

写真:えちぜん鉄道、栗原景、高木比呂志、東日本旅客鉄道、マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ、由利高原鉄道、両備ホールディングス

01 まごころ列車 おばこアテンダント

絣の着物姿のアテンダントが乗客をサポート

（秋田県・由利高原鉄道）

おばこ姿の人々がお出迎え。「おばこ」とは、元々は秋田の言葉で「若い女性」という意味。秋田の方言が混じった案内は、東京の言葉とは印象が異なり、懐かしい雰囲気がある

旅行者や地元の人々を温かくもてなしてくれる地方の鉄道。秋田県の由利高原鉄道では、1日1往復の「まごころ列車」に「絣」の着物を着た「おばこ」と呼ばれる女性アテンダントが乗務している。乗客の乗り降りを手伝ってくれるだけでなく、沿線の観光情報を語ってくれたり、アテンダント手作りのおみやげを旅の思い出にプレゼントしてくれたりと、旅の思い出づくりを手伝ってくれる。地方ならではの、心のこもった旅を楽しめる。

終着の矢島駅から上り列車が発車する時は、売店の人気者となっている女性や社員が盛大に見送ってくれる

02 たまⅡ世駅長

猫が一番偉い！？“スーパー駅長”

（和歌山県・和歌山電鐵貴志川線貴志駅）

猫の顔と日本の伝統工法檜皮葺（ひわだぶき）屋根の貴志駅
DESIGNED BY EIJI MITOOKA + DON DESIGN ASSOCIATES

廃止届けの出された路線を引き継ぎ、地元の人々と一緒になって再生した和歌山県の和歌山電鐵。飼い主から「たま」のすみかを駅に置いてほしいと頼まれ、三毛猫の「たま」が「猫駅長」に就任し、大きな話題となった。現在は、「ニタマ」が「たまⅡ世駅長」に就任。貴志駅で乗客を迎えている。日本では、猫は「福を招く動物」。たまのイラストを描いた「たま電車」も走り、内外から多くの観光客が訪れる地域のシンボルとなっている。

たま名誉永久駅長

和歌山電鐵の親会社がある岡山で保護された、通称ニタマ。伊太祈曽駅の駅長を経て、たまⅡ世駅長となる。普段はガラス張りの「駅長室」でのんびりと寝ていることが多い

03 フルーツマイスターが生み出す最高のスイーツ

スイーツ列車「フルーティアふくしま」（福島県・JR東日本磐越西線）

車内で提供されるスイーツは、他の店では食べられないオリジナルメニュー。工場で、一つひとつを職人たちが手作りしている。列車とは思えない落ち着いたインテリアも魅力

桃、いちご、さくらんぼなど、福島は日本有数のフルーツの産地。創業90年以上という老舗果物企業では、フルーツマイスターが素材を厳選し、心を込めて作ったオリジナルスイーツをカフェ列車「フルーティアふくしま」へと提供している。いちばん美味しくなる時期に合わせて提供される2種類のオリジナルスイーツには、職人たちのアイディアが詰まっている。

04 恐竜たちが地域の魅力を発信

恐竜博士がホームでお出迎え（福井県・えちぜん鉄道）

世界有数の恐竜化石の発掘地である福井県。その玄関である福井駅では、至る所で恐竜に出会える。「きょうりゅう電車」を運行しているえちぜん鉄道福井駅のホームに設置された「ダイノベンチ」では、白衣を着た「恐竜博士」が乗客をもてなしている。

「恐竜博士」は県立の博物館のキャラクター。左手には草食恐竜の骨格、右手には本を持っている

COOLな列車

ARTな列車

ニッポンカルチャートレイン図鑑

写真：南海電気鉄道、西日本旅客鉄道、東日本旅客鉄道、ポケモン、マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ

©2016 Pokémon. ©1995-2016 Nintendo/
Creatures Inc. /GAME FREAK inc.

ポケモン・Pokémon は任天堂・クリーチャーズ・
ゲームフリークの登録商標です。

POKÉMON with YOU トレイン

世界で人気の日本生まれのキャラクターに会える

東北地方の大船渡線では、東日本大震災の被災地支援活動「POKÉMON with YOU」の協力で、人気ゲームキャラクターのポケモンがいっぱいの列車が運行している。ポケモンのイラストが描かれた座席がある車両と、のびのび遊べるプレイルーム車両が、子どもたちに夢を与えている。

花嫁のれん

伝統ニッポンを体験する「和と美」の列車

石川県の能登半島を走る観光列車。赤と黒に彩られた外観は、北陸の伝統工芸である“輪島塗”の漆器をイメージ。それに“加賀友禅”という和服の模様を配している。車内に入ると、日本庭園に見られる敷石をデザインした通路や、金沢の金箔を施した壁面、友禅染めの個室の仕切りなどが、北陸の和と美を感じさせる。

ラピート

力強さと速さを融合させた奇抜なフォルム

大阪の都心と関西国際空港を結ぶ南海電鉄のアクセス特急電車。「レトロフューチャー」をテーマにした外観は、航空機の流線形に SL 機関車のイメージを重ね合わせた力強いデザイン。ブルーの車両が印象的だ。

※パース内写真作品 ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

現美新幹線

新幹線で移動しながら現代アートを鑑賞

上越新幹線の「走る美術館」。車両をキャンバスに見立て、写真家・映画監督の蜷川実花氏が漆黒をベースに長岡の花火をデザインしている。車内には、6 人のアーティストによる絵画や彫刻、写真などの作品が展示されている。

鉄道の旅をより快適により安全に

写真：アフロ、九州旅客鉄道、東海旅客鉄道、中井精也、日立製作所、マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ

人と技術の総合力がきわだつ日本の鉄道

日本の鉄道の凄さは、新幹線のスピードだけではない。
大量輸送を保ちながらダイヤの正確さ、安全性・快適性、そして省エネルギーを実現している点だ。
テクノロジーと人の力が融合した、日本の鉄道技術の総合力に迫る。

▼次世代のエコロジー車両 《DENCHA》

電池で走る次世代の鉄道車両が登場した。JR九州が開発した蓄電池電車「DENCHA」だ。「DENCHA」は、DUAL ENERGY CHARGE TRAIN の略で、電気が通っている区間では架線の電気で走りながら電池に充電し、電気が通っていない区間では充電した電気で走る。ブレーキをかける時に発生する電気も充電できるので、現在電気が通っていない路線で走っているディーゼルカーに比べエネルギー消費や二酸化炭素の排出量を４～５割程度削減でき、排気ガスもなくなる。

819 DENCHA DUAL ENERGY CHARGE TRAIN

2016 年秋から九州で運転されている「DENCHA」

車内の情報表示画面では車両内の電力の流れを解説するエネルギーフローも表示

▼コツコツと進化を続ける東海道新幹線

「新幹線の進化に終わりはありません」そう語るのは、車両開発の責任者である上野雅之さんだ。JR東海では、新幹線をより心地よく、正確に、そして安全に走らせるために、全列車の詳細な走行データを収集し、分析と研究を続けている。2020年度に登場予定の新型車両「N700S」は、そうした地道な研究から生まれた技術者たちのアイディアの結晶だ。積み重ねた進化のいくつかを見てみよう。

その1 揺れが減り、乗り心地がアップ

新幹線の顔である先頭車両の形は、新幹線の乗り心地を左右する重要な要素の一つだ。2007年に登場したN700系から、航空機設計などにも活用されている手法を用いて開発。最新型の「N700S」では3D解析や空気抵抗を分析する実験などを重ねて、「デュアルスプリームウィング形」という翼を広げたようなデザインが生まれた。これにより高速走行時に生じる風の抵抗や空気の渦による揺れ、トンネルを通過する際に発生する音を小さくする効果がある。

その2 小型化・軽量化で進む省エネ

新型車両では、走行に関わる装置を約20％軽量化し、さらなる省エネルギー化を実現した。電機メーカーと共同開発した今までよりロスが少なく高い温度でも動作可能な次世代半導体を採用し、走行風による冷却方法と合わせることで小型・軽量化できた。

その3 ブレーキ距離を短縮し、安全性が向上

列車を自動的に制限速度以下に抑えるシステムとブレーキの仕組みを見直して、地震発生時に自動でかかるブレーキの停止距離をN700Aよりさらに５％短縮。たった５％に思えるが、地震発生時により早く列車を止めるなど、より安全な新幹線を作り上げることにつながる。

こうした進化の積み重ねこそが、新幹線が何年たっても変わらず世界の最先端であり続ける理由なのである。

先頭形状の進化

【現在の最新型 N700A】「エアロダブルウィング形」

【N700S】 新開発「デュアルスプリームウィング形」

少しでも騒音を小さく、そして揺れの少ない快適な車両を目指して進化したN700S の新しい顔　※ライトの位置は未定です

コツコツと地道な研究を得意とする日本人の気質が、高速鉄道の技術向上にも生かされている

▼円滑な運行に欠かせない指令員の判断　新幹線総合指令所

「コンピューターのシステムを利用している運行管理の現場にも、人の判断力が欠かせません」東海道新幹線の輸送指令長を務める平山勉さんは、現場での判断の大切さを語る。

指令員の経験がものをいうのが、台風などでダイヤが乱れた時だ。例えばホームの混雑の状況は、季節、曜日、時間などで常に変化する。どの列車から動かせば、混乱が少なく済むかは、いまだにコンピューターだけでは決められない。輸送指令員が、モニター画面だけでなく実際にホームの状況等を確認して的確なダイヤ変更などの判断を下しているのだ。

1日最大432本（2016年10月までの実績）もの列車が運行される東海道新幹線。
何か起きれば、各分野の指令が集まって意思決定を行う

▼海外でも活躍する日本の多彩な鉄道技術

鉄道大国、日本の先進技術は、海外にも積極的に提供されている。2007年に開業した台湾高速鉄道は、日本の東海道・山陽新幹線で運行されている700系車両を基にした車両「700T」が使用されている。人材育成も、安全・定時運行で実績のある日本の鉄道会社が協力している。日本ならではの緻密な訓練・研修によって教官となるコア人材を養成した。開業から10年近くが経過した現在も重大事故は皆無だ。

ロンドンと英仏海峡トンネルを結ぶ高速新線を走る日本製車両。
在来線と高速専用線の両方を自在に走れる

英国のロンドンと英仏海峡トンネルを結ぶ高速新線「High Speed 1」には、2009年から日立製作所が開発した高速車両「クラス395」が運行されている。新幹線の技術が生かされた車両で、最高時速は225km。日本の新幹線並みの高い信頼性を発揮し、ダイヤも正確だ。床下にディーゼルエンジン付き発電機を装備したハイブリッド高速車両、「AT-300」の運行開始も目前だ。

台湾で活躍している高速鉄道は、静粛性、乗り心地の良さ、定時運行などの面で
日本の技術が評価されている

インドネシアやミャンマーといった新興国にも、日本の鉄道技術が導入されている。新型車両の導入で役目を終えた車両を、メンテナンス技術とセットで輸出。単に中古車両を譲渡するのではなく、良い物を長く大切に使い続けるノウハウを多くの国に伝えている。

インドネシアのジャカルタに輸出された日本の鉄道車両。
日本ではJR常磐線、東京メトロ千代田線を走っていた

風情を楽しむ旅列車

地域の郷土色を生かした観光列車が、日本各地に続々と登場している。四季折々の自然を堪能できるパノラマ列車や、地元の天然素材を使ったくつろぎのスペースなど、ただ移動するだけではなく、列車に「乗ること」自体を楽しむことができる。

●クルーズトレイン「ななつ星 in 九州」

列車内にしつらえられた豪華客室に滞在しながら、九州内を周遊するクルーズトレイン。車内には、地域の伝統工芸家が一つひとつていねいにつくりあげた磁器や木の組子欄間などが用いられ、クラッシックな中に華やかな雰囲気をつくっている。（写真提供：九州旅客鉄道）

●「ゆふいんの森」

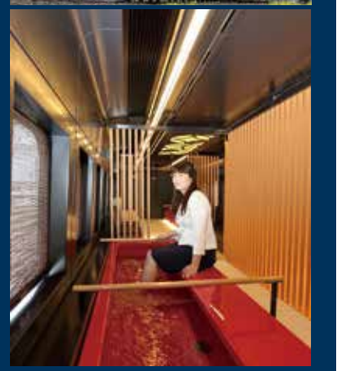
九州の人気温泉地・由布院に向かうリゾート特急。窓を大きくとった客室から沿線の車窓を楽しみ、木質のモダンなデザインでまとめられたフリースペースで語らいながら、旅の雰囲気を盛り上げることができる。

●叡山電車「きらら」

天井まで広がる窓に向けた座席に座って、ゆったりと京都洛北の自然を観賞できる。秋の紅葉シーズン、車内が紅に染まる車窓風景は圧巻だ。

●「えちごトキめきリゾート雪月花」

新潟県のローカル鉄道には、沿線の風景と地元の味覚を同時に味わってもらえる観光列車が運行されている。日本海の絶景や妙高の山並みを眺めながら、新潟県の海の幸、山の幸が堪能できる。



●「とれいゆ つばさ」

山形新幹線に登場したリゾート列車。セールスポイントは、電車の中で温泉を楽しめる「足湯」車両だ。座席を和風の畳敷きにした車両や、地元の食べ物や日本酒を販売するラウンジカーなど、列車に乗りながら、温泉街を散策する楽しみを体験できる。

写真：叡山電車、えちごトキめき鉄道、九州旅客鉄道、マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ

ぬくもりを乗せて

文・写真　中井精也

岩手県の三陸海岸を走る三陸鉄道(右上)。全線復旧を祝って大漁旗を振る人たちに迎えられた(左・右下)

2011年3月に発生した東日本大震災による津波で、壊滅的な被害を受けた三陸鉄道。2014年4月、悲願であった全線復旧を遂げたその日、3年ぶりの列車を迎えた住民が列車に送った言葉は、「おめでとう」でも「ありがとう」でもなく、「おかえりなさい」でした。列車は、その街の、その村の、一員だったのです。

日本の鉄道は旅客が中心。人々の暮らしにとけ込むように、きめ細かく線路が敷かれ、毎日たくさんの人を乗せて列車が走っています。この列車と人の距離感の近さが、温かみのある日本独自の鉄道風景を生み出していると僕は感じています。

そして日本には美しい季節感があります。春には桜が、夏には輝く入道雲が、秋には紅葉が、そして冬には白銀の世界が、景色を美しく染めるのです。

新幹線、ローカル線、蒸気機関車、路面電車にグルメ列車など、バラエティー豊かな日本の鉄道。美しい自然と調和しながら、人の温もりを纏いながら走るその魅力を、ぜひ堪能して欲しいと思います。

鉄道写真家　中井精也

1967年、東京生まれ。鉄道の車両だけにこだわらず、鉄道にかかわるすべてのものを被写体として独自の視点で鉄道を撮影し、新しい鉄道写真のジャンルを生み出した。2004年春から毎日1枚必ず鉄道写真を撮影するブログを継続中。広告、雑誌写真の撮影のほか、講演やテレビ出演など幅広く活動している。

http://railman.cocolog-nifty.com/blog/

にっぽん地図めぐり

心の鉄道風景をたずねて

四季の自然に溶け込んで日本人の原風景の一部になった鉄道路線があります。
中井精也さんが選んだ全国の「絵になる鉄道路線」をご紹介します。

島根県

一畑電車（出雲市）

色鮮やかに連なる鳥居の奥に電車が走る風景は、どこか神話の舞台のようです。また、沿線には「縁結びの神様」として有名な出雲大社があります。

富山県

黒部峡谷トロッコ電車（黒部市）

ワイルドなオープン客車で、黒部峡谷の断崖絶壁を走る観光路線。一番のオススメは秋。清廉な空気と鮮やかな紅葉を、車窓から堪能できます。

兵庫県

姫新線（佐用町）

兵庫県の姫路から中国地方の山間に向かうローカル線。沿線には山や川、田畑など、のどかな景色が広がります。真夏に佐用町で見られるひまわり畑は圧巻です。

北海道

釧網本線（標茶町）

北海道東部を走る釧網本線のハイライトは、日本最大の湿原、釧路湿原を横断するシーン。雄大な自然が目の前に広がります。運が良ければ、車窓からタンチョウを見ることができます。

秋田県

五能線（八峰町）

沿線のほとんどが日本海のすぐ近くを走る路線です。車窓から見る、海に沈む夕陽や冬の荒波は迫力満点。津軽平野のリンゴ畑の中を走るのも楽しみの一つです。

鳥取県

若桜鉄道（八頭町）

鳥取県東部を走るローカル鉄道。国の登録有形文化財の一つである長さ 128 mの橋を滝下から見上げると、まるで水の上を列車が走っているようです。

静岡県

大井川鐵道（川根本町）

SLの運行本数が日本一。茶畑のなかをのんびりと走ります。大自然の中を走る蒸気機関車はタイムスリップしたかのような感覚を味わえます。

鹿児島県

指宿枕崎線（指宿市）

九州最南端の鉄道路線、指宿枕崎線。富士山に似た完璧な山容から「薩摩富士」と呼ばれる開聞岳や、噴煙を上げる桜島など、雄大な風景が望めます。

愛媛県

予讃線（西予市）

瀬戸内海と宇和海に沿う路線。伊予石城付近では収穫後の田んぼに稲を干す昔ながらの「わらぐろ」が残っています。

千葉県

小湊鐵道（市原市）

東京から約1時間の距離とは思えない、レトロな雰囲気が魅力の路線。秋に色づく上総久保駅の大イチョウは、思わず息をのむ美しさです。

召し上がれ、日本

10

Japanese Soul Food

おにぎり

写真：アフロ、アマナイメージズ、セブン-イレブン・ジャパン

おにぎりは、炊き立てのご飯に、味のついた具を入れ、手で握って作る食べ物です。古くから親しまれてきた日本の伝統的な、そして今も変わらず人気が続く庶民の味です。

おにぎりは、簡単に作れ、作り置きが可能で、持ち運びやすく、また、手づかみでいつでも手軽に食べられることから、古くから旅のお供や弁当として重宝されてきました。一般的なおにぎりは三角形に握られたもので、ご飯の中には梅干しや焼き鮭、昆布、鰹節などを入れ、外側に海苔を巻いたものが代表的です。いまでは、具に肉類を入れたり、チャーハンや赤飯、炊き込みご飯などを握ったり、表面に味噌や醤油を塗って焼きあげたものなど、バリエーションも様々です。デパートの食料品売り場やコンビニエンスストア、スーパーマーケットなどでも数多くの種類が販売されています。場所を選ばず食べられるファストフードであり、日本のソウルフードでもある「おにぎり」を携えて、列車の旅を楽しんでみてはいかがでしょう。

上左：コンビニエンスストアの店頭には豊富な種類のおにぎりが並ぶ

上右：おにぎりの中には梅干しなど様々な具が入れられる

中央：三角形ににぎり、具をのせ、海苔で巻く、典型的なおにぎりの形

下：家庭では炊き立てのご飯を、塩水に浸した手で心をこめて握る

街歩き にっぽん ⑩

近代日本のロマンを体感する 門司

九州の北端にある北九州市門司区。
近代日本の歴史的建造物が数多く残り、古い駅舎が
街のシンボルになっているエキゾチックな街だ。

門司港駅舎
かつての九州の玄関口は美しい木造建築だ。
2018年まで改修工事中（写真＝PIXTA）

歩行者用はね橋ブルーウイングもじ
門司港レトロ地区にあり、1日6回水面から
60度の角度に跳ね上がる

門司港レトロ観光列車
門司港と和布刈エリアを10分で結ぶ
（写真＝アフロ）

門司港レトロ展望室
門司港エリアで一番高い建物である「レトロハイマート」
の31階から門司港レトロ地区と関門海峡を望める

左上：旧門司税関　1912年に竣工した煉瓦造りの建物は、現在ではレストランやギャラリーとして使われている

右上：九州鉄道記念館　鉄道車両9両が展示され、多くの鉄道ファンが訪れる。写真はC59 1号機

左下：門司港レトロクルーズ　門司港の街並みを海上から眺められる遊覧船は観光客に人気（写真＝PIXTA）

右下：観光人力車　古い街並みにマッチしたオールドスタイルの人力車で、観光スポットを一巡り（写真＝PIXTA）

本州と九州を分かつ関門海峡に面する街、門司は、古くから交通、交易の要衝だった。1889年に門司港が開港されると、大陸貿易の拠点として、神戸、横浜と並ぶ日本の三大国際貿易港の一つとなり、大いに繁栄した。

門司は、1942年に本州との間に海底鉄道トンネルが開通するまで、九州の鉄道の玄関口でもあった。1914年に建築された旧・門司（現・門司港）駅舎は、ネオ・ルネッサンス様式と呼ばれる左右対称の外観デザインが特徴だ。駅舎内には、青銅製の手水鉢、大理石とタイル貼りの洗面所など、当時のモダンなデザインを物語る歴史的な資産が残され、1988年に駅舎としては初めて国の重要文化財に指定された。（門司港駅舎は、2012年9月～2018年3月までの予定で、保存修復工事中。）

門司港駅の周辺には、外国貿易で栄えた時代の建造物を中心に、ホテル・商業施設などを当時の趣に整備した観光スポット「門司港レトロ」地区がある。このうち、門司港エリアにある九州鉄道記念館は、1891年に建築された赤レンガの本館が特徴で、新旧の鉄道車両が展示され、鉄道の歴史を楽しみながら学べる。さらに、かつて海運会社や商社、銀行、倉庫として使われた歴史的建造物が、博物館やギャラリー、レストランなどに生まれ変わり、港町を散策する人々を楽しませている。また、観光人力車や観光クルーズ船に乗って、案内を聞きながら、懐かしい雰囲気や雄大な風景を楽しむことができる。

旧門司三井倶楽部　商社が社交クラブとしてつくった建物で、国の重要文化財に指定されている

関門海峡花火大会　海峡に上がる花火は毎年8月に開催される夏の風物詩

小倉城天守閣　門司からちょっと足を伸ばして、小倉を訪ねる。小倉城の天守閣は 1959年に再建された

門司港レトロ地区の夕焼け

門司港エリアに隣接して、和布刈エリアがある。和布刈エリアまでは、九州鉄道記念館駅から、かつての港湾貨物鉄道線を利用した「門司港レトロ観光線※」に、トロッコ列車が運転されている。めかり公園第二展望台からは、関門海峡の雄大な景色を望むことができる。

門司港駅からローカル列車に乗車すると十数分で、北九州市の中心、小倉駅に到着する。1602年に建造された小倉城を中心とする勝山公園には、四季折々の自然が美しい日本庭園や、文学、歴史を学べる施設が点在している。

さらに足をのばすと眺望が楽しめる皿倉山がある。標高622メートルの展望台からは、昼は北九州市街が一望でき、ナイトビューも素晴らしい。麓の駅から山頂まではケーブルカーとスロープカーを乗り継ぐ、約10分の旅だ。

門司周辺は、グルメスポットとしても人気が高い。付近の海で水揚げされた新鮮な魚介類を使った日本料理のほか、洋食、中華の名店が並ぶ。門司のご当地グルメ「焼きカレー」もぜひ体験してみたい。

鉄道は、近代日本の産業や文化の発展に重要な役割を果たした。鉄道を使った門司の街歩きは、そうした時代の記憶をたどる旅でもある。

※観光列車の定期運行は 3月中旬から 11月下旬までの毎週土日、祝日。春休み・夏休み期間は毎日運行

左：ふぐの刺身とふぐちり　門司では、関門海峡の新鮮な魚介類を楽しむことができる

右：焼きカレー　ご飯の上にカレー、チーズ、卵を乗せてオーブンで焼いた門司のご当地グルメ

門司港レトロ地区

❶ はね橋ブルーウィングもじ
❷ 門司港レトロ展望室
❸ 旧門司税関
❹ 九州鉄道記念館
❺ 門司港レトロ内桟橋
❻ 旧門司三井倶楽部
❼ めかり公園第二展望台

左：皿倉山ケーブルカー　登山電車を乗り継げば、眺望抜群の皿倉山に登山できる

右：旦過市場　北九州市民の胃袋を支える旦過市場には人通りが絶えない

交通案内

東京国際空港（羽田）から約1時間40分で北九州空港へ。空港から北九州エアポートバスで JR 小倉駅へ約35分。JR 鹿児島本線で門司港駅まで約15分。

問い合わせ

● **北九州市観光情報コーナー**
TEL: 093-541-4189
http://www.gururich-kitaq.com/

● **九州鉄道記念館**
TEL: 093-322-1006
http://www.k-rhm.jp/

街歩き にっぽん 10

ものづくりの粋を極める

靴下

写真：楠 聖子

日本製の靴下は、ものづくりの精神と製造技術で、高い品質を誇っています。使用される素材も様々ですが、例えば、普通の綿とオーガニックコットンを配合した、ウールのように暖かいものや、防臭効果の高いものなど、日本独自の素材技術が生んだ商品も数多くあります。特に、室内では靴を脱ぐ習慣のある日本では、機能性に加え高いファッション性が追求されています。このため、絵柄も豊富で日本で古くから親しまれているモチーフをデザインしたもの、さらに、健康によく動きやすい五本指タイプのもの、和装の足袋のように親指が分かれた形状のものなど、様々な商品が取り揃えられています。実用性とおしゃれを同時に楽しめ、高品質な日本の靴下。お土産としてもきっと喜ばれることでしょう。

niponica
にぽにか 2017 no.20
〈日本語版〉

発行／日本国外務省
〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1
http://www.mofa.go.jp/（外務省ホームページ）
http://web-japan.org/（日本紹介ウェブサイト）